研修プランＡ２

グループ協議でホワイトボードを活用して疑問を解決する

■目　的　　グループ協議を通して生まれた疑問を、ホワイトボードを活用して、授業者と共に解決

していくことで、授業改善に資することを目指す授業研究会です。

■対　象　　校内（主に高等学校）

■時　間　　４５分

■形　態　　全体→グループ→全体

 ※グループの分け方：教科ごとに１グループ５～６人、教員数が多い教科は分割

　　　　　　　　　　　　　　　　教員数が少ない教科は複数教科合同

■準備物　　□ホワイトボード（各グループ１枚・マグネット付きで黒板貼付可能な物が好ましい）

　　　　　　□ホワイトボード用のペン（各グループ１～２本）

　　　　　　※ホワイトボード使用の理由

・ホワイトボードの使用は、議論を可視化できたりするなど、「対話的な学び」の実現

においても、教科等における表現力の育成においても、有効な教具の一つと言える。

・本研修において、ホワイトボードを使用することで、授業で使用していない職員につ

いても、その有効性を実体験してもらう意味もある。

　　　　　　※なお、ホワイトボードがない場合は、模造紙等で代用可能である。

●研修前

○研究授業前

・学習指導案に、学校教育目標（育成を目指す資質・能力や生徒像）を基に具体的に考えた、その単元（授業）で育成を目指す資質・能力を明記する

・学習指導案に、本時の主となる提案内容（授業後に協議して欲しい内容）を明記する

1. その単元（授業）で育成を目指す資質・能力を具現している姿とその要因について
2. 主体的・対話的で深い学びに迫る姿とその要因について

・生徒の学びに着目すべく、実施教室の（後方ではなく）側面に、参観者用のスペースを用意する

○授業観察

・参観者は、生徒の学びに着目すべく、（後方からではなく）教室の側面から参観し、特に生徒のグループ協議等の場面では、生徒の言葉が聞こえ、活動が見える位置に移動して、観察をする

・前項の「本時の主となる提案内容」に関する場面においては、授業者の発問・支援だけではなく、生徒の学びも観察し、メモをとっておく

●研修

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 流れ | 進め方 | 留意点等 |
| １　研修の説明及び　授業者自評【全体】（４分） | ○目的と流れについて説明する。 | ○目的は上記「■目的」参照○流れは左欄「流れ」参照○雰囲気作りに関する留意点：授業者が研究授業を行って良かったと実感できるよう、進行役も参加者も、研修全体を通し、建設的な意見の交流を心掛ける。 |
| ２　協議【グループ】（20分） | ○各グループで、主に「本時の主となる提案内容」に関して「良かった点」「改善点」「質問」の３項目について協議し、ホワイトボードにまとめ　る。　 | ○グループの分け方は上記「■形態」参照○「本時の主となる提案内容」は上記「●研修　前」参照○「本時の主となる提案内容」に関し、生徒の姿を基に、協議する。○ホワイトボードには、左記３項目に分けて、項目ごとに意見をまとめ記入する。○なお、「質問」については、例えば「生徒の学びを見て、疑義が生じた発問や展開の意図」｢本時までの取組や生徒の状況｣等、授業観察では自明とならず、授業者を含め全体で検討した方が良いと思われる内容を考える。○（場合によって）進行役は、次のような点を協議前に提示する。・グループ内で進行役、記録者の役割を決める・１人１回当たりの発言時間を決める等全員が発言できるように留意する |
| ３　全体共有及び質疑【全体】（20分） | 〇各グループ代表が、まとめた内容を発表し、全体で共有する。〇「質問」については、授業者が回答したり、全体で対話をしたりして、課題解決や理解促進等に努める。〇各グループは、発表終了ごとにホワイトボードを前方黒板に掲示する。 | ○｢良かった点｣｢改善点｣｢質問｣については、各グループの協議で重点的に取り上げられた事項を中心に発表する。○質問や対話は、参加者全員の授業改善に資するような、建設的な意見の交流となるように促す。また、次の点等に留意し、全体を巻き込む対話を通した課題解決を心掛ける。・各自の実践や経験に結び付けて考えさせる・一つの質問に対し、似たような質問や意見を全体に促し、参加者の多くが関心を持ち、全体で検討すべき課題を焦点化する。・焦点化された課題は、全体で議論し、集合知による解決策を模索する○授業者を含め全参加者は、研修後の省察の材にするために、参考になる点はメモをとる。○進行役は、各グループの発表の共通点や相違点を全体に意識させながら、会を進める。○左記の進め方のため、ホワイトボードは、マグネット付き等黒板貼付可能な物がいい。 |
| ４　諸連絡【全体】（１分） | ○今後の取組を説明する。 | ○各校の実態に応じ、下記「●研修後」を参考　に、今後の取組について確認する。 |

●研修後

〇各校の実態に応じ一定の期間を設け、各自で省察する。その際、次の点に留意する。

・研究主任等は、定期的に各自が省察し授業改善するために、各自の省察内容は、例えば、各自の手帳に書き留めたり、各校既存の書類（研修アンケート・自己評価・年間指導計画等）内に位置付け、記入したりするよう促す

・省察内容は、例えば｢協議を通じて考えが広まった点｣｢研修を通して熟考し、自身の考えが変容した点｣｢自身の実践で改善したい点｣等、単なる感想にならないように指示や記入様式を工夫する

・省察内容を今後に生かすため、次の研修会等で共有したり、今後作成する学習指導案に反映させたりする